

2022 年 8 月 21 日
在グアテマラ日本国大使館

公開情報のとりまとめは以下の通り。

1 内政

（１）経済大臣の交代

8 日、マルーフ経済大臣は一身上の都合により 11 日付けで辞任する意向を発表し、11 日、後任としてハニオ・ロサレス・アレグリア新経済大臣が任命された。

（２）命と家族のためのイベロアメリカ大会の開催

9 日、キリスト教福音派（エバンヘリコ）による「命と家族のためのイベロアメリカ大会」がグアテマラで開催され、グアテマラ市が Capital Pro Vida de Iberoamerica に指定された。同式典にはジャマテイ大統領らと共にミゲル・マルティネス元政府センター長も出席した。

（３）命と家族保護の為の政令の棚上げ

国会で 8 日承認された政令 18-2022（命と家族保護の為の法。中絶女性への罰金刑増額、同性婚の禁止など）に違憲性があるとし、「ジャ」大統領は 10 日に同政令の拒否及び棚上げを国会へ要請、15 日、国会は同政令を棚上げにした。

（４）アイファン反汚職判事の不逮捕特権剥奪請求

エリカ・アイファン危険事案 D 法廷判事が「裏の選考委員会事件（※「Comisiones Paralelas 2020」と呼ばれ、2020 年の最高裁及び上訴裁判所判事選挙プロセスにおいて汚職派に都合の良い候補者を選出するため、汚職派により陰の選考委員会が設けられ政治的不正操作が行われたと見られる事件。）」での違法な手続きを許可したとし、法曹界関係者が同判事の不逮捕特権剥奪の請求を行った。同請求を受け、3 月 4 日、調査判事によるアイファン判事の召喚が行われた。ロダス人権擁護官（PDH）やロバート・F・ケネディ人権センターのケリー・ケネディ・センター長始め国内外の人権活動家がアイファン判事に同行した他、国内外の複数の機関がアイファン判事への支持を表明した。

これを受け、8 日、米務省はポラス検事総長による反汚職アクターへの攻撃に懸念を示すプレスリリースを発出し、ポップ米大使は 9 日、アイファン判事の出廷へ同行した。

（５）グアテマラの反汚職評価

16 日、Vance Center（ニューヨーク弁護士会による非営利団体）は中南米反汚職評価を発表。グアテマラの評価は 10 点中 3.54 点でワースト 2 位となった（最下位はベネズエラ）。

(6) アイファン反汚職判事の辞任及びシトゥムル判事の停職

21日、反汚職判事として評価されるエリカ・アイファン判事が辞表を提出し、23日に最高裁が同辞表を受理した。エルサルバドルのデジタル新聞エル・ファロによると、3月9日にアイファン判事は米国へ亡命した。

また、22日、2月に不逮捕特権が剥奪された反汚職派のシトゥムル判事の停職を最高裁が決定した。

(7) 検事総長選出プロセス

15日までに検事総長立候補者8名に対し33件の反対意見が検事総長選出委員会に提出された（うち13件がポラス現検事総長に対するもの）。22日までに反対意見が提出された検事総長立候補者8名中5名が自身の潔白証明を提出した。

29日、選出委員会は、反対意見が提出されていたことは採点の参考となるが、候補者選定プロセスから除外されることはないと発表した。また、同日、ポラス検事総長は、検事総長選出プロセスにおいて、外国の法は当国内で適応されないため自身が米エンゲル・リストに掲載されていることは再選に影響しないと発言した。

2 内政（新型コロナウイルス関連）

(1) グアテマラの感染状況

検査実施数が少ない週末・祝日の一時的な低下を除き、3月初旬の新規感染者数は約2,500～3,000件／日で推移したが、下旬には1,500～1,000件／日まで減少した。

(2) 「アラート信号」システム

期間	赤	橙	黄	緑
2月21日～3月6日	224市	112市	4市	0市
3月7日～20日	217市	117市	6市	0市
3月21日～4月3日	138市	185市	17市	0市

注：2020年7月27日から開始された「アラート信号」システムに関する詳細は当館HP（https://www.gt.emb-japan.go.jp/itpr_ja/border20200331.html）を参照。

(3) 飲酒に関する政令の変更

2日、アルコール類の販売及び公共の場での飲酒時間を午前1時から午前6時まで禁止（発表前は午後11時から午前6時）すると発表した。これにより、コロナ禍前の規制時間に戻る事となった。

(4) 未成年者のワクチン接種に関する追加政令

14日、保健省は、ワクチン対象年齢を6歳以上（6～11歳にはモデルナ、12～17歳にはモデルナまたはファイザー）に引き上げ、3回目のワクチン接種対象年齢を12歳以上とする旨の国家ワクチン接種計画の追加政令を発表した。

(5) アフリカ8カ国からの入国禁止措置の廃止

11日、保健省は、昨年11月より実施していた過去14日間にアフリカ大陸8カ国（エスワティニ、エジプト、ジンバブエ、ナミビア、ボツワナ、南アフリカ共和国、モザンビーク、レソト）に滞在した外国人への入国制限を廃止した（入国可能となった）。

(6) スプートニクV購入中止に関する発表

16日、ジャマティ大統領は、ロシアからの輸送が困難なためスプートニクVの購入中止を分析中であると発表した。

(7) ワクチンの使用期限到来による廃棄

31日、スプートニクV 290万回が接種期限を迎えた（2,700万米ドル分の損失）。

3 外交

(1) ジャマティ大統領の SICA-CARICOM 合同首脳会談への参加

3日、ジャマティ大統領はベリーズで開催された第4回 SICA-CARICOM 首脳会談に出席し、参加国に対し、これまで以上に団結・協力し共通の問題の解決を模索するよう呼びかけた他、同地域に影響を与える気候変動に対し、団結することの重要性を強調した。また、スリナム大統領、ガイアナ大統領、ハイチ首相らと二国間会談を行った。

(2) ウクライナ情勢に関する大統領メッセージ

6日、ジャマティ大統領は、ロシアのウクライナ侵攻に関しビデオ・メッセージを国民に対し発出し、ロシアの侵攻を非難し、ウクライナからの避難家族を受け入れる旨発表した。

他方、グアテマラ移民庁は、ウクライナから避難してくる10家族を受け入れる旨発表した。ロドリゲス移民庁長官は、まずはグアテマラ国内で働くウクライナ人を親族に持つ避難民を受け入れているが、今後、（親族がおらずとも）グアテマラに避難を希望するいかなるウクライナ人も受け入れると発言した。

(3) ジャマティ大統領による対米関係コメント及び内政干渉批判

14日、ジャマティ大統領は米国の保守派メディアである「アメリカーノ・メディア」のテレビ・インタビューを受けた際、対米関係等について発言しグアテマラへの内政干渉を批判する発言をした。なお、同インタビューはポップ米大使等がアイファン反汚職派判事の出廷に同行した数日後に行われ、ジャマティ大統領はインタビューの中で、ポップ米大使を始めとした大使らによる行為をウィーン条約違反であると批判していた。

(4) ニコルズ米西半球担当国務次官補による当国経団連に関する発言他

ブライアン・ニコルズ米西半球担当国務次官補は、16日、米シンクタンクThe Inter-American Dialogueが主催するイベントに参加し、当国経団連（CACIF）に対する米国による制裁の可能性や、ジャマティ大統領が内政干渉と批判するポップ米大使の行為を支持す

る旨発言した。

(5) ブカロ外相とマヨルカス米国土安全保障長官のオンライン会談

17日、ブカロ外相は、多岐に亘る二国間及び地域アジェンダの重要事項について協議するため、マヨルカス米国土安全保障長官と会談を行った。両者は、国際犯罪や麻薬密売、密輸・税関不正、その他関連犯罪、人身売買を行う犯罪組織との闘いといった共通の主要課題に立ち向かうため、連携して具体的な活動に取り組むという意志とコミットメントを再度確認した。

(6) ブカロ外相の米国訪問

3月31日及び4月1日、ブカロ外相は米国を訪問し、米州機構（OAS）及び国連を訪れた。ブカロ外相はOAS臨時会合にて、米州人権委員会（IACHR）報告書の中でグアテマラが特別な注意を要する人権状況と脅威を示す項目に含まれることに不服であると発表した。

また、ブカロ外相はハリス副大統領の国家安全保障補佐官フィリップ・ゴードン氏と会談を行い、外交政策、開発分野での前進、安全保障、両国がパートナーとして共通の課題に取り組むことの重要性について協議した。

4 経済

(1) 燃料価格の高騰に伴う補助金承認

8日、国会はプロパンガスへの補助金を承認したほか、15日、車両燃料補助金を承認した（ディーゼル1ガロン当たりQ. 5、レギュラーQ. 2. 5）。期限は2ヶ月間。

(2) 2022年、海外家族送金の予想金額

2022年の海外家族送金額はGDP比18.4%（169億米ドル）に達すると見込まれる。家族送金額は年々増加しており、2021年（152億米ドル）は2011年（43億米ドル）の3倍。他方、中南米の家族送金額のGDP比は平均2.4%。中米北部三カ国（エルサルバドル23%、ホンジュラス24%）は他地域に比べてGDP比が高い。

◇主要経済指標◇	2022年			2021年	2020年
	3月	2月	1月		
インフレ率（前年同月比）	4.17%	2.98%	2.87%	4.28%	3.21%
貿易収支（百万ドル）	△1,306	△1,088	△1,306	△12,987	△6,692.3
輸出（百万ドル）	1,558.6	1,292.3	1,212.4	13,620.7	11,514.2
輸入（百万ドル）	2,865.3	2,381.2	2,518.7	26,607.8	18,206.5
外貨準備高（百万ドル）	20,763.5	20,835.9	20,813.4	20,939.6	18,468.2
外国からの送金（百万ドル）	1,493.1	1,262.7	1,180.7	15,295.7	11,340.4
為替レート（対ドル月平均）	7.68	7.71	7.69	7.73	7.72

（出典：中銀、国立統計院）